

2017年4月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療事情】

4月5日【Granma】

“キューバ人医師、ペルーの洪水被災者を治療”

リマ北部 50km にある高地のキャンプに非難している被災者をキューバ人医療従事者が治療。家庭医と看護師、保健師で構成された旅団は4月2日から最も深刻な被害にあった地域から非難してきた人々を収容しているキャンプ5ヶ所で医療サービスの提供を開始した。キャンプに避難している多くの方は下痢や呼吸器疾患、皮膚疾患、発熱や結膜炎で苦しんでいる。

4月5日【Granma】

“キューバの国際協力は国を特徴づける”

キューバにおける国際協力は、革命の外交政策の本質の要素であり、この社会を擁護する連帯と人道的な基本的な価値を反映している。協力は、無条件に提供するものであり、主権、法律、文化、宗教、自決権を絶対的に尊重しながら、政治的介入手段としての使用は拒否される。キューバは50年以上にわたり、医療、教育、スポーツの分野で186ヶ国に協力をしてきた。1960年代初めにチリとアルジェリアの人々を支援するための医師団を派遣したのが最初の貢献であった。

ベネズエラ、ボリビア、ニカラグア、モザンビーク、アンゴラでキューバの専門家によって行われた読み書き能力向上キャンペーンで得られた結果は、教育における著明な成果となった。キューバのスポーツ専門家が参加した協力により、100ヶ国以上で競技者の競技レベルを向上させたのも意義深いものである。そしてキューバにおける最も重要な国際貢献は疑いなく、医療分野である。ハリケーン・ミッチで被災した中央アメリカ諸国に医療支援を提供した1988年に始まり、ラテンアメリカ、カリブ諸国、アフリカやアジアといった多くの国に医療支援は拡大された。自然災害や深刻な感染症の流行によって被害を受けた人々を支援するヘンリー・リーブ旅団の仕事で特筆すべきことは、2015年にギニアのコナクリ、リベリア、シエラ・レオネといった西アフリカで蔓延したエボラウイルス症に対して戦い、多くの命が救われたことはよく知られている。キューバの国際貢献のもう一つの鍵は、特にアフリカやラテンアメリカ、カリブ諸国といった発展途上国の医療従事者への教育である。

4月7日【Granma】

“うつ病と闘うキューバ”

キューバでは毎年4月7日は世界保健デーを祝う。今年はうつ病に関して重点的に取り組む。専門家はこの病気は様々な症状を現す気分障害と定義している。極端なうつ病の症例では15歳～29歳の若年者において社会的現象となる自殺を引き起こす。効果的な治療のひとつとして、今年のキャンペーンである会話療法がある。「うつ病について話しましょう。前向きの人生を踏み出すために」対人コミュニケーションスキルを促進し、うつ病の予防、認識、取り組んでいく。キューバの西にあるマタンサス県で開催される今年の主なイベントは、コミュニティー劇団による美術フェスティバルや、パネルディスカッション、映画上映、プロモーション活動、写真展等である。

ラテンアメリカの3億人のうち16%がうつ病に苦しんでいる。

キューバでは包括的なケアを提供する特別なサービスのネットワークが家庭医や看護師によって構成されている。キューバのプライマリーシステムでは、うつ病を診断し、治療できるよう訓練された医療従事者10869人が全国の449のポリクリニコ、136ヶ所の地域特別精神保健センターが配置されている。

2次レベルにおいては17個の総合病院の精神科や、15個の小児科病院や19の精神健康センターがある。またキューバには24時間対応のホットラインがある。中毒の対処法の情報提供だけでなく、うつ病のような精神疾患の援助を求める電話が多い。

家族からの見捨てられ、長期入院、身体的な障害、慢性非伝染性疾患、希望の喪失、アルコール依存症といったものに苦しんでいる高齢者が特に危険性が高い。

4月7日【DIARIO DE CUBA】

“キューバ-米国の先進的な心エコーの会議が初めてハバナで開催”

木曜日から土曜日まで、キューバと米国の専門家達320人が参加して、アメイヘイラス兄弟病院で初めての先進的な心エコーの会議が開催された。この会議では心腔の定量化やストレーン画像、心臓腫瘍学等について議論される。

4月10日【Granma】

“キューバ人医師はペルーで3000件以上の外来診療を行う。”

ヘンリー・リーブ国際災害救助隊は、4月上旬にペルーの北部の大雨による大災害の被災地に到着後、3600件の外来診療を行った。

バホ・ピウラのカタカオス地区では、外来患者の多くは女性と子供で、大雨と洪水により呼吸器や消化器系の感染症で苦しんでいるが、救助隊の働きにて状況は改善してきている。受診するためには長蛇の列に並ばなくては行けないが、彼らからは感謝されている。

また疫学者達は、蚊の発生を避けるためによどんだ水を処理し、避難所を清潔に保っている。

4月17日【EL ESPECTADOR】

“医療は観光以上の増収をキューバにもたらす”

今週月曜日に発表された公式の統計によるとキューバ人医師は2016年年末までに62ヶ国で働いており、そのうち35ヶ国に対する医療サービスは有料であった。主に医療サービスである専門サービスの販売は、キューバに観光以上の外貨獲得をもたらしている。最近公表された記事によると、外国での医療活動が2011年から2015年の間に年間平均115億4300万ドルの外貨をもたらしている。2016年保健統計年鑑によるとキューバ人医療従事者は、ラテンアメリカとカリブ諸国の24ヶ国、サブサハラのアフリカ27ヶ国、中東、北アフリカには2ヶ国、東アジアと大洋州には7ヶ国に加えてロシアとポルトガルに派遣された。この年鑑では派遣された人数は不明であるが、保健省によると2015年中頃で5万人以上派遣されたうちの半数は医師であった。最も重要な市場であるベネズエラやブラジルの他に、キューバ人医師はカタールやクウェート、中国、アルジェリア、サウジアラビアや南アフリカといった国々に派遣されている。ベネズエラの急激な経済危機の中でさえ、キューバの最大の貿易相手国である。医療サービスの販売は急激に成長する観光業の収入を2016年では28億ドル上回っている。一方で包括的医療プログラムと称してハイチやボリビア、エル・サルバドル、ガテマラ、ニカラグア、ホンジュラス、エチオピア、コンゴ、タンザニア、ジンバブエといった27ヶ国には無料の医療サービスも提供している。教育と医療が無料で受けられるシステムは、キューバ最大の誇りである。

4月19日【DIARIO DE CUBA】

“キューバと米国の専門家は多発性硬化症の治療における幹細胞の使用を議論”

5月4日～5日かけてハバナ市で開催される第二回目の会合でキューバと米国の専門家が多発性硬化症の治療における幹細胞の使用に関する意見交換を予定している。

米国からはテキサスやオハイオ、ミネソタといった所の大学や病院からの専門家が来玖し、キューバのCIREN（国際神経再生センター）の医師と会合を持つ。キューバにおいては幹細胞の治療はまだ研究段階であるため、患者には適用していない。2016年に第1回目の会合が開催され、双方にとって非常に有意義なものであった。

4月19日【Granma】

“ペルーにおけるキューバ医療旅団の業績を賞賛”

ペルーの保健大臣とピウラ知事は、最近ペルーを襲った洪水の被災者の治療に当たっているキューバ医療旅団の業績を賞賛した。23人のキューバ医療協力者が自然災害に被災した数百人の人々を治療する専門性と献身的な仕事ぶりを強調した。今回の災害でペルーでは107人が死亡した。今回の旅団には自然災害や深刻な疫病の流行を専門とするヘンリー・リープ国際救助隊のメンバーも含まれている。キューバ医療旅団は、本日までに洪水で家を流された数千の被災者に避難所を提供している臨時キャンプ地に近いピウラ市の病院で

6641 人の患者の治療を行った。加えて、以前保健大臣が開設したキャンプの病院で 4 月 18 日より 10 人の医師と 10 人の看護師によって 24 時間診療サービスを開始した。

4 月 20 日【Granma】

“キューバでの主要な死因は慢性疾患”

第 45 版保健統計年鑑によると慢性非伝染性疾患による死亡率は 10 万人当たり 731.4 人と最も高い。この年鑑によると最も多い死因は心臓病で 10 万人当たり 217.7 人、次いで悪性腫瘍が 216.3 人でこの二つで死因の 49.%を占めた。また脳血管疾患の死亡率は増加していた。一方、女性は糖尿病においては女性の死亡率が高かった。

心臓病の 66.0%は虚血性心疾患であり、44.4%は急性心筋梗塞であった。女性では心不全や慢性リウマチ性心疾患による死亡が多かった。悪性腫瘍に関しては、気管支、肺の悪性腫瘍が最も多く、次いで直腸を除く大腸の悪性腫瘍、次いで悪性リンパ腫や血液癌であった。

WHO によると今後、非伝染性疾患が世界中の主な死因となるため、リスクを減らす健康政策が不可欠となる。キューバでの喫煙率は低下傾向であるが、13 歳～15 歳の若者の喫煙率は増加しているという。また、キューバの家族の 54%、子供の 65%、妊婦の 51%、そして青少年の 60%がタバコの副流煙にさらされていると言われている。

4 月 21 日【Granma】

“人生における、もう一つのチャンス”

キューバで腎移植を受けた患者は 5500 人に及ぶ。生体腎移植と死体腎移植のいずれかを毎年平均で 185 人が移植を受けている。ハバナ、ビジャ・クララ、カマグエイ、オルギン、サンチアゴ・デ・クーバ等の国内 9 つのセンターで献身的な活動がなされている。5 年前は移植件数は 108 件であったものから、非常に多くの増加を来した。この増加は生体腎移植（母親、父親、兄弟姉妹、子供に加えて、甥、姪、いとこ、叔父、叔母）の選択の拡大によることが大きい。生存率によい影響を与え、患者は現在 80%の寿命の延長が認められている。もう一つの重要な事実、5 年間の臓器提供者の増加である。臓器提供の重要性についてキューバの家族の間で認識が高まっていることを反映して、100 万人当たり 8 人から 14 人へ増加した。現在、手技や医薬品の高コストにもかかわらず、国は無料で移植を提供している。移植待機患者は 3,300 人を超えている。

4 月 24 日【El Sal de Mexico】

“メキシコとキューバの HIV 診療所の連携の提案”

メキシコ・シティー市政府代表は、キューバの熱帯医学研究所「PedroKourí」（IPK）の認定を受け、HIV/エイズのケアを専門とする首都で診療所の運営を見直すよう提案した。熱帯医学研究所で HIV /エイズを統合的に治療するプログラムを担当する専門家と話し合い、メキシコ・シティーの診療所とのより緊密な交流を要請した。IPK は、89 カ国の 53,000

人以上の専門家の訓練を支援している。

4月28日【Granma】

“約100万人の患者がラモン・パンド・フェレール眼科顕微鏡手術センターで治療”

1988年キューバ革命指導者であるフィデル・カストロによって設立されたハバナ市のラモン・パンド・フェレール眼科顕微鏡手術センターで977937人の患者が治療を受けた。約30年にわたって275773件の手術を行い、そのうち白内障の手術は195000件であった。2004年7月に地域の人々の視力の回復を目的に「奇跡の手術」は創設された。今日までに30ヶ国以上特に中南米、カリブ諸国で300万人以上の患者が眼科手術プログラムの恩恵を受け、66万2000人が白内障の手術を受けた。